



3月22日(木)23日(金)24日(土)

TEL杯 報知新聞社杯争奪戦

層の厚さで南関勢リード

3月22日から開催される川崎競輪は、TEL杯報知新聞社杯争奪戦のF2戦がナイターで開催される。

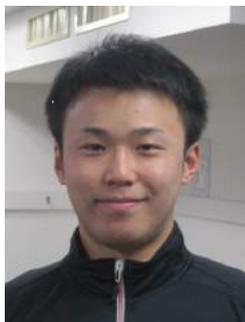
1、2班の注目は地元南関勢の関根健太郎(神奈川100期)。前回好走しており、この地元戦に弾みをつけている。そして、ホームバンク佐藤和典(神奈川70期)の鋭いタテ脚は健在で、目標次第で地元Vを狙える。他にも前回Vの遠藤勝弥(静岡109期)や、当所好走する福森慎太郎(千葉84期)らの機動力が揃う南関勢の層が厚く1歩リード。南関勢は川上真吾(東京98期)が有力。自ら動いても優勝狙える力はあるが、高橋築(東京109期)の逃げを目標にできれば更に有利。伊藤太(山梨91期)と新井僚太郎(山梨100期)の山梨コンビも軽視禁物。東北勢は浦崎貴史(北海道75期)が中心も、高橋幸司(山形99期)が負傷から復帰2戦目で状態が分からず、やや機動力が手薄で苦戦が予想される。

チャレンジャーは小林裕朗(千葉111期)、奥村諭志(岡山111期)、今村麟太郎(高知111期)のルーキー3人の戦いに注目。

A級主力選手

関根健太郎

神奈川100期

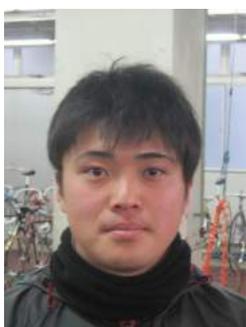


地元神奈川を率いる関根健太郎が調子を上げてきている。前回の静岡では初日をまくりで快勝すると、2日目はホームからカマして、別線にハマられ

ながらも3着に残った。決勝は最後に佐々木孝司(青森84期)のまくりで捕えられたものの、トップクラスの先行力を誇る末木浩二(山梨109期)逃げを先にまくり切つていいたが、その不安定な状態が続いていたが、その近況を私拭するような好内容だった。「関根幸夫(神奈川59期)の息子」という肩書きで周囲の注目も大きかったが、なかなか勝ち星を掴めず、デビューからコツコツと先行で力をつけてきた。S級も見える位置までレベルアップした。定評あるタツシユ力はS級でも十分に通用するし、実力あるマーク選手も度々通れるほど。結果も求められる地元戦での奮闘に期待。

高橋 築

東京109期



ここ3場所は優出を外している高橋だが、競走内容に強い決意が見られる。そのキッカケとなったのが3場所前の平塚。初日から連日末を欠き、準決勝をこなして高橋が口にした言葉は「最近、なかなか逃がして貰えなかったけど、先行できていないツケが出てきている。何かあっても最終日は先行します」と公言した通り、最終日は遠藤雅也(千葉100期)との壮絶な先行争いを演じた。その後の2場所も積極的なレースが目立っており、前回の四日市準決勝も8着に沈んでいるが、内容はホーム前から同期中川勝貴(福井109期)とゴール寸前まで勝負み合つての結果、確実に航続距離が伸びている。点数が上がると共に相手の警戒が強まり、どうしてもまくりに回される展開が増えていた。しかし、自らを冷静に分析して修正点を見出した。再び先行屋としての本能に火がついた高橋が、また結果を出し始めるのも時間の問題。

遠藤 勝弥

静岡109期



関根健太郎と共に南関勢の先導役として期待される。同様の影響を受けて輸入した遠藤は、先行基本の競走で着実に力をつけており、決勝進出も増えた。そして、前回大宮では完全Vを達成。初日は残り1周半から出切りと、別線を引き残して逃げ逃げ切り、準決勝はまくりを決める。慣れない単騎戦となった決勝だったが、じつと脚を溜めて直線一気突き抜けた。まくりと追込みでの2勝だったペースとなる戦い方は前受けか中団から一旦下げて、カマシか早めのまくりを打つ形。状況次第ではしつかりと後攻めか、抑えて駆けるケースもある。まだまだ不安定な要素も多いが、出し切った時のパンチ力は相当。レース運びがしつかり確立されてくれば、この先も伸びしろは十分にある南関期待の機動力。

CR主力選手

小林 裕朗

千葉111期



父に裕司(千葉71期)、叔父に大能(千葉87期)を持つ小林は近くには競輪がある環境で育つてきた2世選手。

昨年の12月に当地に参戦しているが、予選は連日末を欠いていたの2着。決勝は同期の格清洋介(静岡111期)ラインの3番手を確保しながら捲れずの結果。物足りなさを感じさせる結果に終わったが、この3カ月でだいぶ安定感が増してきた。そのキッカケとして挙げたのが年末の不調を解消するべく練習時間を増やし、年明けから投入した新車の感触が良いということ。加えて、同県近藤隆司(千葉90期)、夏樹(千葉97期)兄弟に教えをもらうことで、この2人が結果を出しているフォームを学び、更なるステップアップに取り組んでいる。グレードレースで活躍する近藤隆司、かつてS級で鋭いまくり、カマシを連発していた父裕司のような南関を代表する選手を目指すべく努力、試行錯誤を続ける新鋭だ。



111期在校ナバーワンの奥村が川崎競輪に初登場。アマチュア時代の輝かしい実績を持つ本格派だが、まだまだ実力を発揮しきれない感もある。前回静岡の準決勝のように、完全に力を出し切れず終いのレースも少なくない。力を考えれば別線の執拗な警戒を受けるのは当然だが、それでも力に伏せるだけの脚力は十分にあるはず。そのうぶさを晴らすかのように、最終日は積極的に前出で先行で逃げ切りを決めている。状態で大きな影響は無いとみる。先日の玉野で行われたルーキーチャレンジでは同期が力強いレースを展開。それを見れば否が応でも刺激を受けるはず。出世争いには歩遅れたがそれに追いつき、追い越すだけの力はある。スケールの大きい競走を続けて実戦に慣れれば、盛り上がる中四国勢の若手の一角を担う存在になるはずだ。

奥村 諭志

岡山111期



決勝想定メンバー

予想氏名	府県	期別	級別	着外	失格	出走回数	勝率	連対率	3連対率	H数	B数	競走得点
伊藤一貴	栃木	72	A1	0	0	21	0.00%	38.00%	52.30%	0	0	92.45
高橋 築	東京	109	A2	1	0	19	21.00%	47.30%	57.80%	9	0	90.33
高橋昇平	埼玉	99	A1	3	0	24	12.50%	33.30%	50.00%	0	10	91.50
遠藤勝弥	静岡	109	A2	5	0	27	18.50%	37.00%	48.10%	11	0	89.33
注松永晃典	静岡	76	A1	2	0	17	17.60%	23.50%	41.10%	0	0	93.62
佐藤和典	神奈川	70	A1	3	0	25	8.00%	12.00%	20.00%	0	0	90.56
浦崎貴史	北海道	75	A1	2	0	29	0.00%	10.30%	27.50%	0	5	92.46
川上真吾	東京	98	A1	4	0	28	7.10%	21.40%	39.20%	5	17	93.62
関根健太郎	神奈川	100	A1	4	0	30	7.10%	21.40%	39.20%	5	17	91.40